

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鴻巣本町五丁目計画新築工	階数	地上15F
建設地	埼玉県鴻巣市	構造	RC造
用途地域	商業地域、近隣商業地域	平均居住人員	1,500人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年3月8日
敷地面積	6,113 m <sup>2</sup>	作成者	寺川幸子
建築面積	2,266 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月9日
延床面積	26,569 m <sup>2</sup>	確認者	定森淳一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	高い断熱性能を確保して、快適な居住空間を創出するとともに、建物の長寿命化や地球環境にも配慮した計画。室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に配慮。	その他 特になし
<b>Q1 室内環境</b>	F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用し健全な空気質環境づくりに努めている。各住戸の窓は複層ガラスとし断熱効果を高めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 中高木・低木・被地植物等により敷地内緑化に努めている。外構緑化指数を26%達成している。
<b>LR1 エネルギー</b>	適切な断熱材を施し、熱負荷抑制に努めた。共用部照明にLED照明設備を採用。高効率潜熱回収型給湯器を省エネ設備として備えている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減(CO <sub>2</sub> 削減率21%)に配慮している。
<b>Q2 サービス性能</b>	劣化対策等級3とし、長期間耐用可能な対策を実施。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	ノンフロン断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)湯葉本町五丁目計画新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40		-		<b>3.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.0</b>	0.15	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音				<b>5.0</b>	0.50	<b>4.3</b>	0.50		
1 開口部遮音性能		T-2		5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		RC壁Dr-50相当		3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL45		3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		LH50		3.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00		<b>3.8</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00		
1 室温		等級4		3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.38	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.6</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00		<b>3.5</b>
3.1 昼光利用				<b>2.8</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50		
1 昼光率		住居:昼光率2.0%以上		2.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備		共用:ハイサイドライト設置		4.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50		
1 昼光制御		住居:カーテン+庇による制御		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00		<b>3.8</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		居室床面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保		3.0	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-		<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.6</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00		<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		光回線		3.0	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>5.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
3 内装計画		共用:コンセプトが明確にあり、パースにより事前検証を実施		5.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途上位3種のうち2種以上にB以上使用、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり	2.9m以上3.0m未満	<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ		<b>3.0</b>	-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.3</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	等級4	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.87	<b>4.6</b>	0.50	-	-	<b>4.6</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		<b>3.0</b>	-	-	-	
4.2 運用管理体制		<b>3.0</b>	-	-	-	
集合住宅の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水		<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材、タイル	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	解体時の分別が容易な工法を採用	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	防水プライマー	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP≤3	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出率79%	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪駐車場の設置、管理車両用駐車スペースの計画	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		<b>3.0</b>	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの一部を満たす、広告物照明無し	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)鴻巣本町五丁目計画新築	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	2.6	=	6.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出率低減に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
中高木、低木、被地植物等により、敷地内緑化に努めている。			

:入力欄